

## 鉄鋼・非鉄金属

### 1. 評価対象企業（15社）

新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWAホールディングス、UACJ（新規）、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

### 2. 評価方法

#### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	6	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	8	27
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	10
計		26	100

(注) 評価項目の内容および配点は43頁参照

#### (2) 評価実施アナリストは20名（20社）である。（44頁参照）

### 3. 評価結果

#### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（42頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**、**説明会等**、**フェア・ディスクロージャー**、**自主的な情報開示**の4分野において項目の新設、削除、内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は66.2点（昨年度72.3点）、総合評価点の標準偏差は5.5点（昨年度3.8点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（7社：新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属）は65.4点（昨年度71.0点）、非鉄金属（8社：三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWAホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ）は66.9点（昨年度73.7点）となり、本年度も非鉄金属が鉄鋼を上回った。なお、両業態とも昨年度を下回ったが、非鉄金属の下落率が鉄鋼より大きかったことから、業態間格差は縮小した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が69%（昨年度73%）、**説明会等**が74%（昨年度77%）、**フェア・ディスクロージャー**が59%（昨年度85%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が63%（昨年度66%）、**自主的な情報開示**が51%（昨年度55%）と、全分野において昨年度を下回り、特に**自主的な情報開示**および**フェア・ディスクロージャー**の分野が、他の分野に比べ低水準となった。
- ③ 評価項目について見ると、全26項目中6項目（**説明会等**4項目、**経営陣のIR姿勢等**1項目、**フェア・ディスクロージャー**1項目）が平均得点率80%以上となり、特に、次の2項目（(a)(f)）は全社中12社以上が

満点となった。

- (a) 「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか」(平均得点率 93%) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 100%14 社)
  - (b) 「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料 (詳細なファクトブックを含む) が、TDnet 経由またはホーム・ページで入手できますか」(平均得点率 85%) (得点率: 90%台 5 社・80%台 9 社)
  - (c) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」(平均得点率 81%) (得点率: 80%台 12 社)
  - (d) 「インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか」(平均得点率 81%) (得点率: 90%1 社・80%台 9 社)
  - (e) 「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか」(平均得点率 80%) (得点率: 90%1 社・80%台 10 社)
  - (f) 「説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能であり、有用な情報提供となっていますか」(平均得点率 80%) (得点率: 100%12 社)
- ⑤ 一方、「経営トップの市場との対話姿勢をどう評価しますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」については、平均得点率が 59% (昨年度 69%) の評価となり、得点率の差も大きく、アナリストが重要視している経営トップの市場との対話姿勢について多くの企業で改善が求められる。
- ⑥ また、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか」については、引き続き多くの企業で改善が強く望まれる。(平均得点率 42%) (得点率: 10%1 社・20%1 社・30%台 4 社・40%台 5 社 [内訳: 鉄鋼 5 社、非鉄金属 6 社])
- ⑦ さらに、フェア・ディスクロージャーの評価項目中、次の 3 項目は昨年度の評価を下回った。
- (g) 「ホーム・ページを利用して有用な情報提供 (決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等) を行っていますか」(平均得点率 50%) (得点率: 全社 50%)
  - (h) 「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか」(平均得点率 50%) (得点率: 全社 50%)
  - (i) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示 (例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等) は、公平にかつ遅滞なく行われていますか」(平均得点率 62% [昨年度 83%]) (得点率: 60%台 7 社・50%台 3 社・40%台 1 社・30%台 1 社)
- ⑧ なお、本年度に新設した下記 3 項目については、次のとおりとなった。
- (j) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」(平均得点率 81%) (得点率: 80%台 12 社) (上記④(c)参照)
  - (k) 「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか」(平均得点率 75%) (得点率: 55%1 社・60%1 社・65%2 社・70%1 社)
  - (l) 「非財務情報 (ESG 情報、統合報告書等) の開示に積極的に取り組んでいますか。(平均得点率 67%) (得点率: 55%1 社・60%3 社・65%3 社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 住友金属鉱山 (ディスクロージャー優良企業 [8 回連続 8 回目]、総合評価点 79.4 点 [昨年度比 -3.4 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 83%)、説明会等 (87%)、フェア・ディスクロージャー (71%)、コーポレート・ガバナンス関連 (73%) が第 1 位、自主的情報開示が第 2 位 (67%) となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップがアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について有意義なメッセージを発信していることや、市場との積極的な対話姿勢に

より投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていることが評価されたほか、IRの重要性を強く認識していることにより、IR部門への十分な人員配置、同部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、経営トップのIR姿勢が評価された。また、IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していること、担当交代時に十分引継ぎされていることも高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第2位となった。

- ③ **説明会等**においては、決算説明会における会社側の説明が十分であることが高く評価された。また、説明会資料等において収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていることも高く評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも極めて高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が公平にかつ遅滞なく行われていること」に関して、第1位の評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、十分に説明されていることが評価された。また、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること、中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていることも評価された。さらに、配当政策・自社株買いなど株主還元策について説明されていることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第1位となった。また、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等の実施」に関して、実施した事業所見学会が評価され、平均得点率を約20ポイント上回った。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第2位 丸一鋼管（高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業、総合評価点 72.6点〔昨年度比 -2.2点〕、昨年度第3位、一昨年度第2位）**

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（81%）、コーポレート・ガバナンス関連（70%）が第2位、説明会等が第3位（78%）、自主的情報開示が同得点第6位（54%）フェア・ディスクロージャーが第11位（55%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営トップがアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について有意義なメッセージを発信していることや、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えようとする対話姿勢が評価されたほか、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、経営トップのIR姿勢が評価された。また、IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していることも高く評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が第1位となったほか、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会における会社側の説明が十分であることが評価された。また、説明会資料等において収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が公平にかつ遅滞なく行われていること」に関して、同得点第2位の評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、配当政策・自社株買いなど株主還元策について十分に説明されていることが高く評価された。

同社は3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業」に選定した。

### 第3位 三井金属鉱業（総合評価点 72.1点〔昨年度比-0.7点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、説明会等（79%）、フェア・ディスクロージャー（65%）が第2位、経営陣のIR姿勢等が第3位（78%）、自主的情報開示が第5位（56%）、コーポレート・ガバナンス関連が第8位（64%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報に加え、注目事業について説明機会を提供していることや、担当交代時に十分引継ぎされていることが評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第2位となった。さらに、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも高く評価された。
- ③ 説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることが評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が公平にかつ遅滞なく行われていること」に関して、同得点第2位の評価となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていることが評価された。また、資本政策について十分に説明されていることも評価された。

#### (3) 上記以外の企業についての特記事項

##### ○ 古河電気工業（総合評価点 68.6点〔昨年度比-6.3点〕、第4位〔昨年度第2位〕）

同社は、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「見学会・説明会等の開催」に関して、実施した事業所見学会、IRデーが評価され、平均得点率を約20ポイント上回ったことなどにより、自主的情報開示が第3位（63%）となったほか、経営陣のIR姿勢等が第5位（72%）となった。

以 上

## 2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目6 (配点33点)	順位	評価項目8 (配点27点)	順位	評価項目4 (配点10点)	順位	評価項目5 (配点20点)	順位	評価項目3 (配点10点)	順位	
1	5713 住友金属鉱山	79.4	27.5	1	23.5	1	7.1	1	14.6	1	6.7	2	1
2	5463 丸一鋼管	72.6	26.7	2	21.1	3	5.5	11	13.9	2	5.4	6	3
3	5706 三井金属鉱業	72.1	25.9	3	21.3	2	6.5	2	12.8	8	5.6	5	4
4	5801 古河電気工業	68.6	23.7	5	19.8	8	5.9	8	12.9	7	6.3	3	2
5	5471 大同特殊鋼	67.6	23.3	6	19.9	6	6.3	3	13.0	6	5.1	8	12
6	5411 ジェイエフイーホールディングス	66.8	24.1	4	19.9	6	5.4	12	13.1	5	4.3	12	11
7	5486 日立金属	66.5	22.7	7	18.2	15	6.1	5	12.6	9	6.9	1	4
8	5714 DOWAホールディングス	66.0	22.4	8	20.5	4	6.2	4	11.5	13	5.4	6	7
9	5802 住友電気工業	65.0	22.0	10	19.4	10	6.1	5	13.4	4	4.1	13	8
10	5803 フジクラ	64.1	22.2	9	19.8	8	5.1	14	13.6	3	3.4	14	13
11	5401 新日鐵住金	63.5	20.2	11	19.1	12	6.1	5	12.3	10	5.8	4	9
12	5406 神戸製鋼所	61.8	19.5	13	20.2	5	5.8	9	11.5	13	4.8	9	10
13	5711 三菱マテリアル	60.7	19.3	15	19.4	10	4.9	15	12.3	10	4.8	9	6
14	5413 日新製鋼	59.2	20.0	12	18.8	14	5.8	9	11.9	12	2.7	15	14
14	5741 UACJ	59.2	19.4	14	18.9	13	5.4	12	10.9	15	4.6	11	未実施
	評価対象企業評価平均点	66.22	22.61		19.99		5.88		12.69		5.05		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.5点(昨年度3.8点)であった。

2018年度 評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

<b>1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス</b>	配点 (33点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営トップのIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）	7
② 経営トップがアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。	7
③ 経営トップの市場との対話姿勢をどう評価しますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	7
(2) IR部門の機能	
IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。また、担当交代時に十分な引き継ぎがなされていますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	2
<b>2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示</b>	配点 (27点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	6
② インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	4
(2) 説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料（詳細なファクトブックを含む）が、TDnet経由またはホーム・ページで入手できますか。	2
② 説明会資料等における実績および見通しの開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。情報開示の後退はありませんか。	6
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	3
C 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
② 四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。 [開催あり：1点 開催なし：0点]	1
<b>3. フェア・ディスクロージャー</b>	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示は、公平にかつ遅滞なく行われていますか。	5
(2) ホーム・ページ等における情報提供	
① ホーム・ページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っていますか。	2
② 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能であり、有用な情報提供となっていますか。	1
③ 外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。	2
<b>4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示</b>	配点 (20点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
コーポレートガバナンス・コードの各項目について、十分に説明がなされていますか。	4
(2) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	4
② 中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株等）に関し十分な説明がされていますか。	4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について、十分に説明していますか。	4
<b>5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示</b>	配点 (10点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	7
② 非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	2
③ E-mailを利用して公開情報の提供を行っていますか。	1

## 鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部会長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	マコーリーキャピタル証券会社
	尾崎 慎一郎	大和証券
	黒坂 慶樹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	竹元 宏和	アセットマネジメント One
	松本 裕司	野村証券

## 評価実施アナリスト(20名)

井上 崇	三井住友信託銀行	竹元 宏和	アセットマネジメント One
入沢 健	立花証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
尾形 優介	大和住銀投信投資顧問	中村 宏司	QUICK
尾崎 慎一郎	大和証券	平井 克典	東京海上アセットマネジメント
梶島 裕介	大和証券投資信託委託	松本 裕司	野村証券
黒坂 慶樹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	南 純一	りそな銀行
五老 晴信	マコーリーキャピタル証券会社	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	宗像 陽	シティグループ証券
齋野 洋子	JP モルガン・アセット・マネジメント	八木 啓行	富国生命投資顧問
崎村 英治	野村アセットマネジメント	山口 敦	SMBC 日興証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。